

# 経済・金融 フラッシュ

## ユーロ圏消費者物価(22年4月) -7%台半ばの伸び率が継続

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

### 1. 結果の概要: 総合指数は7%台が続く、コア指数も3%台半ば

4月29日、欧州委員会統計局(Eurostat)は3月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices: EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

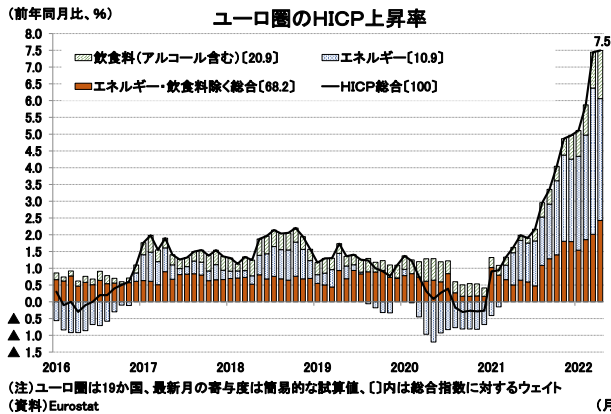
#### 【総合指数】

- ・前年同月比は7.5%、市場予想<sup>1</sup>(7.5%)と同じで、前月(7.4%)から加速(図表1)
- ・前月比は0.6%、予想(0.5%)を上回り、前月(2.4%)からは減速

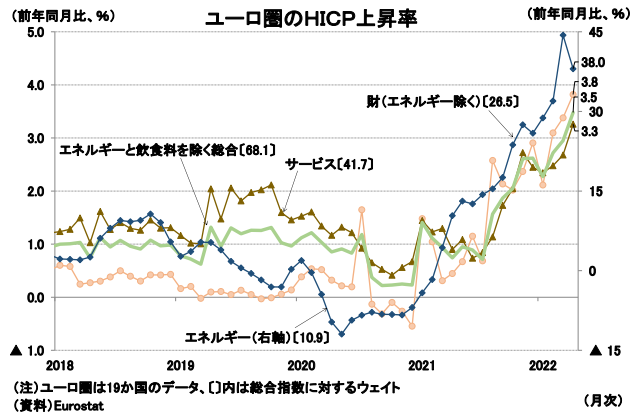
#### 【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数<sup>2</sup>】

- ・前年同月比は3.5%、予想(3.2%)を上回り、前月(2.9%)から加速(図表2)
- ・前月比は1.1%、前月(1.2%)から減速した

(図表1)



(図表2)



### 2. 結果の詳細: エネルギー価格の上昇は一服したが、その他の財・サービスが物価を押し上げ

22年4月のHICP上昇率(前年同月比)は全体で7.5%となり、前月の7.4%からやや加速した。前月の伸び率は速報値では7.5%だったが、確報値で7.4%にやや下方修正されており、その結果、6か月連続で最も高い伸び率を更新したことになる。「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」は3.5%と前月(2.9%)から大幅に加速している。以下で見る通り3月まではエネルギーが全体の伸び率の過半を占めていたが、エネルギー価格の上昇が一服する一方で、その他の財・

<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

<sup>2</sup> 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

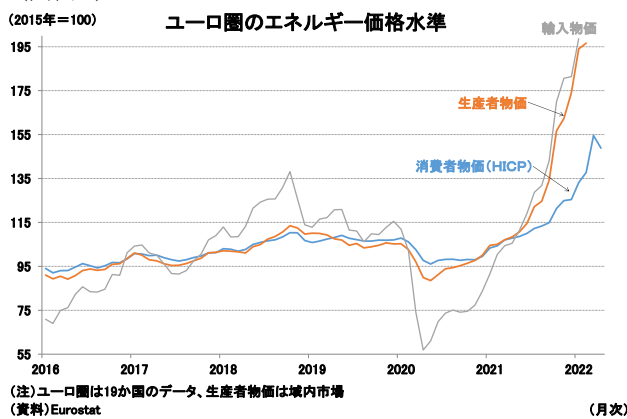
サービスや飲食料の上昇が伸び率を押し上げており、物価上昇の裾野が拡大していると言える。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料（アルコール含む）」の3つに分けて見ていく。

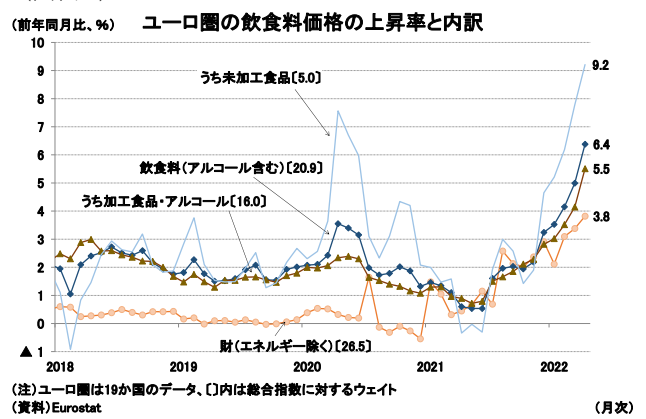
まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財（飲食料も除く）」は2月3.1%→3月3.4%→4月3.8%と3%後半まで伸び率を高めた。「サービス」（エネルギーを除く）も2月2.5%→3月2.7%→4月3.3%と3%超の伸び率に達している（図表3）。品目別に見ると、3月までのデータであるが、娯楽業が2月3.1%→3月3.1%、外食・宿泊業が2月4.4%→3月5.1%と対面サービス産業の上昇傾向が続くほか、家具も2月3.8%→3月4.2%と加速が続いている。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で2月32.0%→3月44.4%→4月38.0%と低下した。前月比では4月は▲3.7%と2桁増となった前月（3月は同12.2%）からマイナスに転じている（図表3）。前年同期比の寄与度は3.63%ポイント程度（3月は4.36%ポイント）となりエネルギーが全体の伸び率の過半を占める状況ではなくなったと見られる（前掲図表1）。

（図表3）

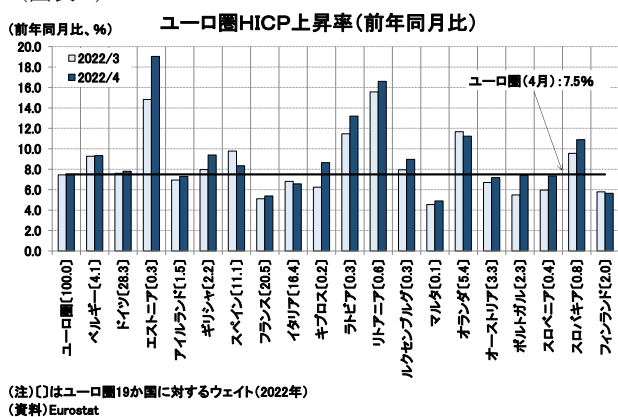


（図表4）

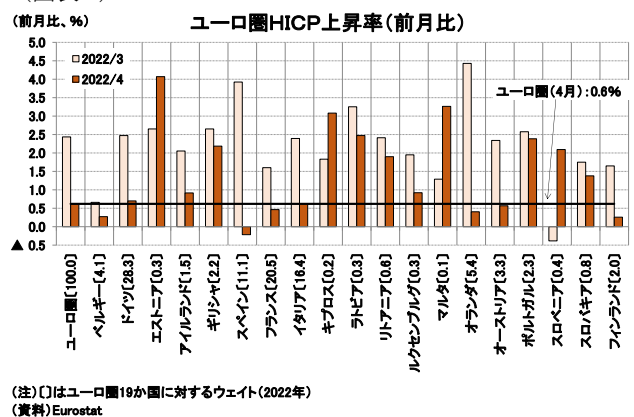


「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で6.4%（3月5.0%）となった。飲食料のうち加工食品の伸び率は5.5%（3月4.1%）、未加工食品は9.2%（3月7.8%）といずれもかなり高い伸び率となっている（図表4）。飲食料の前年同期比寄与度も1.44%ポイント程度（3月は1.07%ポイント）と拡大している。

（図表5）



（図表6）



国別のHICP上昇率では、4月は前年同月比で19か国中15か国が加速した（図表5）。前月比では19か国中スペインを除く国がプラスの伸び率となっており、依然として7か国が2%以上、3か国が3%以上の伸び率を記録している（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。